

イチゴ品種「紅ほっぺ」「きらび香」の育成

竹内 隆 氏（58歳）
静岡県農林技術研究所
研究統括監



1 業績の概要

背景

静岡県は、全国有数の歴史あるイチゴ産地を有し、産出額は全国第3位の主産県であるが、作付面積の減少・高齢化・生産者所得の低下など、産地維持が危惧される様々な問題を抱えていた。優良品種の開発・普及は、これらの問題を解決する有力な手段となるが、促成栽培用品種の育成は種苗会社ではほとんど手掛けられておらず、オリジナルのイチゴ品種の育成が強く求められていた。特に、生産者や消費者からは、大果で、おいしく、多収・安定生産が可能な、収益性の高い品種が求められていた。

研究内容・成果

24年間のイチゴ育種研究において、早生性、果房形態等の主要形質の遺伝性等を明らかにし、実用的な育種技術を構築するとともに、優良遺伝子の集積を図り、膨大な選抜を繰り返して「おいしさ」「多収性」「栽培しやすさ」を兼ね備えた新品種「紅ほっぺ」（平成11年）、「きらび香」（平成26年）を育成した。育成に当たっては、マーケットインの考え方を基に、消費動向などのマーケティング調査を行い、この分析結果を品種開発に反映させるとともに、品種特性を引き出す栽培方法を確立させた。特に「紅ほっぺ」については、普及促進を図るため、県内外での研究会や講習会を研究業務と並行して実施し、全国への普及に努めた。また、両品種の育成と同時に組織体制を整備し、農業団体、普及、行政が一体となった「普及に向けた検討会」や「イチゴ戦略協議会」を発足させるなど、生産・販売体制づくりに努めた。



紅ほっぺ

甘味と適度な酸味を有し、生食用、業務用、観光農園用に幅広く栽培されている。



きらび香

光沢が際立ち、香り高く上品な食味を有する。極早生性・連続収穫性・作型適応性に優れる。

普及状況

両品種とも、多収性、栽培のしやすさ、おいしさを兼ね備え、生産者と消費者から高い評価を得ている。静岡県内での「紅ほっぺ」の作付面積は258ha、83%を占める。また、北海道から沖縄県までほぼ全国で栽培され、市場出荷向けや観光農園などで広く栽培され、栽培品種では、我が国でトップクラスの約500haと推定され、様々な品種の交配親としても広く利用されている。

「紅ほっぺ」は、生食用として消費者に好まれるだけでなく、加工品や高級タルト等にも利用されるなど、新たなイチゴ需要の創出に大きく寄与している。また、「きらび香」は、県内16haで栽培され、普及拡大中である。

2 評価のポイント

長年にわたるイチゴ育種研究活動で培った知識と経験を基に、優れたイチゴを選抜する眼力を身に付け、生産者と消費者の立場での品種育成を心掛けた結果、「紅ほっぺ」と「きらび香」の育成に成功し、全国への普及に貢献したことを高く評価した。